

報告**世界天文年 全国同時七夕講演会の報告****～ひかり保育園の場合～**

富田晃彦（和歌山大学）

1. 簡単に概要説明

実施日時：7月7日（火）9:30-12:30

会場：ひかり保育園（大阪府藤井寺市）

「うちゅうのおはなし」という時間をもって毎月訪問している園です。園の保護者参加の催し「たなばたまつり」で、保護者の皆様へご挨拶するという機会を利用し、今回の企画に参加しました。

講演者：富田晃彦

主催：和歌山大学宇宙教育研究ネットワーク

主催者名として、和歌山大学での天文教育普及活動グループの名前を借りました。

対象：ひかり保育園の園児、保護者、保育者
保育園内部の催しなので、一般の方々からの申し込みをお受けできないものになっておりました。なお、3、4、5歳児クラスの園児さんとその保護者が参加下さいました。園児の参加人数79人、保護者の参加人数76人、保育者数人でした。後は富田と、お手伝いの学生1人。

2. 簡単に内容説明

最初に園児さんは「うちゅうのうた」など、七夕にあわせて、宇宙に関する歌をいくつか歌ってくれました。

会場になった保育園のホールには、園児さんの作品展示も行われました。3歳児クラスは「青空と雲」「太陽」「夜空」「虹」などの絵、4歳児クラスは「こんな星あったらいいな」の大きな絵など、自然の感じ取りや、空想力を発揮した作品を見せてくれました。

続いて「七夕の切り絵」の制作をしました（9:30-10:50）。親子での制作です。できあがった作品を見てびっくり。とても楽しく、と

ても美しく、とても独創的な七夕のお祭りの絵がずらり。七夕と言えばこう、夜空と言えはこう、などと私は考えていましたが、これは硬直的でした、と反省。そうそう、5歳児さんは親子での制作の際、できるだけ自分で作業しようとして親に待ったをかけるのですよね。この自負心は、制作にかかる時間を長くし、出来上がりを必ずしも良くするものではありませんが、大変頼もしいものではないですか。

続いてスライド投影「うちゅうのたび」（10:50-12:30）。これは今年度、毎月の訪問で富田が持っていつているもので、宇宙のどこかの星（惑星など）の写真などをじっくり見てもらって、行った気分になるスライド投影です。園児さんへのいつもの話を、保護者の方にも聞いてもらおうと思ったのでした。そして今夕の空案内、来る7月22日の大きな部分日食の案内をしました。

3. まとめ

スライド投影について、保護者の方から感想をいくつか頂きました。子どもが興味を持つ内容がよくわかった、という記述、そして、昔から好きだったので、自分が子どもの頃の興奮を思い出した、という記述。やはり宇宙は人気。そして、いつでもその興味が呼び起こされるのですね。